

ポイント6 漢字は最高の“褒美”

掛ければ、喜んで、張り切って漢字に立向かうはずです。

雰囲気作りも大切

物事の好き嫌いというものは、最初の第一印象で決ってしまうことが多いものです。ですから、最初の漢字の提示の仕方がと

ても大切です。子供の関心に訴え、興味をそそるように工夫することが必要です。また、お母さん自身が、いかにも楽しくて仕方がないような様子を見せ、楽しい雰囲気作りをすることも必要です。

この漢字学習は、子供が良い子であったことの褒美としてやる性質のものであって、子供に義務として課すべき性質のものではないのです。漢字の意味が理解でき、漢字が読めるようになるということは、子供にとってこの上もない誇りであり、大変な喜びなのです。

「昨日は、ほんとに良い子だったわね。それでご褒美に、今日はこの漢字を教えましょう。この字はね、あなたの大好きな桃、“もも”という字よ。この字はね、中学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんでもまだ習わない字なの(これは事実です。)でも、　　ちゃんは覚えて読めるようになれるわよね。では“もも”って読んでごらんなさい」というように語り

コラム

部首 犭

いぬの全身を象った象形字。

【狼】 おおかみは恐ろしい動物なので、昔の人たちは「犬神様」「大神」と言って敬遠した。